

京都文教大学総合社会学部開設記念特別講演会 「韓流と日韓交流」

日時：2012年9月9日(日) 13:00—14:30

会場：京都文教大学 弘誓館 G104教室

* 講師：孫一亨さん (IMX、インタラクティブメディアミックス 代表取締役社長)

* 司会・対談：金基淑 (京都文教大学総合社会学部教授)

金 本日は暑い中、本学の総合社会学部開設記念講演会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。私は本日の司会と対談を担当させていただきます、総合社会学部教員の金と申します。よろしくお願いいたします。本日は「韓流と日韓交流」と題し、IMXの代表取締役社長の孫一亨さんから話を伺います。日本を含めたアジア各国で韓国の大衆文化が盛り上がりを見せた、いわゆる「韓流」が始まってもう10年ぐらいになります。こうした「韓流」は韓国と各国との関係になにをもたらしたのでしょうか。10年という節目の時期を迎えたいま、韓流を通して日韓交流を振り返ってみたいと思い、孫さんに講演をお願いした次第です。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、孫さんは、日本ではじめて韓国ドラマのネット配信を行うなど、日本における「韓流」の立役者の一人でいらっしゃいます。現在も、多くの韓国のアーティストたちや作品を日本に紹介するなど、日韓文化交流の第一線で活躍されています。

本日の講演は90分を予定していますが、そのうち1時間ほどは孫さんのお話を伺い、残りの30分は私との対談をというふうに考えております。

それでは、孫さん、よろしくお願いいたします。

孫 孫です。よろしくお願いいたします。本日の講演は「韓流と日韓交流」ですが、ご存じの通り、私は研究者ではなく、学問的な話をするのではなくここ10年間私がやってきた活動をもとに、日ごろ考えてきたことを中心にお話できればと思っています。

まず日本における韓流を映像で振り返ってみたいと思います。最初は2004年の4月にペ・ヨンジュンさんが初来日したときのものです。

(以下映像紹介)

1. 映像コンテンツの紹介

○映像紹介

この映像では、その当時の羽田の国際線ターミナルの前しか映っていないのですが、実際は高速の入り口までずっと人が並んでいまして、確か警察の発表では5000名ぐらいとのことでした。このときのペ・ヨンジュンさん、ちょっと太っています(笑)。

○映像紹介

実はあの写真展のときは、ホテルの前で事故があって、結構大変なことになっていました。その当時は、韓流スターというのは特になくて、ペ・ヨンジュンさんが来日して、「何だ、これは」という反応だった。

たと思います。2回目の来日のときは、羽田から入国するなということだったので成田から入ったのですが、成田周辺にテレビ局のヘリコプターが3～4台ぐらい飛んでいたと思います。朝のテレビで「ペ・ヨンジュンさんが入国しました」という生中継をしていて、その当時はセンセーショナルというか、非常に珍しい状況だったと思います。

○映像紹介

ご覧いただいた映像は、埼玉スーパーアリーナでの、「四月の雪」という映画のプロモーションのときのものです。このとき、確か2万9000人近くお越しいただいて、あと全国の5～6カ所の映画館で衛星生中継をして、全部で3万5000人ぐらいご覧になっていたと思います。映画のプロモーションは普通そういうものではないのですが、当時はそれでもチケットが足りませんでした。

○映像紹介

今回の映像には入っていないのですが、弊社はタイの映画を配給したり、香港、シンガポール、マレーシアなどの新人の映画監督の制作を支援したりしてきました。ビジネスには全くならなかったのですが、当初私は、韓国のを日本に持ってくるだけではなくて、目標としてはアジアの文化交流を深めていきたいということがありましたので、そういうこともやっておりました。

今みていただいた映像の人物はマイカ君です。彼は台湾人ですが、当時台湾でかなり人気がありました。日本にもしょっちゅう来ていましたし。

○映像紹介

先ほどソ・ジソプさんのファンミーティングのときに彼が歌った曲も、もともとは日本の「雪の華」という曲を韓国語で歌っ

たものです。日本側からすると韓国のものばかり入ってくるような気がするかもしれませんが、また日本の文化を韓国は禁止しているのではないかという話を、東京の皆さんなどはよくしていたのですが、実際は日本の雑誌やCDやビデオなどは海賊版でなくても普通に好きな人たちはみていたり、聴いていたりしていました。

あと、今、韓国のドラマの一つの傾向として、日本のドラマや日本の漫画が原作のものをよく作っています。先ほどの映像にあった「花より男子」ももともとは日本の漫画ですね。最初ドラマ化したのは台湾で、そこでヒットした後に日本と韓国でもドラマ化され、その後、正式契約はないのですが、中国大陆でもまた制作されています。僕よりもうすこし前の世代から、多分子供のころテレビでみていたアニメは、ほとんどが日本のアニメとっていいでしょう。もちろん韓国語で声優さんが吹き替えはしているのですが、普通に楽しんでみていたアニメはほぼ100%日本のアニメです。主題歌も日本の歌を歌詞だけ韓国語にしただけです。ですから、「文化交流」「文化交流」と言わなくても、それなりの交流が一部のカテゴリーではありました。

ただ、テレビドラマとなりますと、どこの国もやはり自分の国のドラマを地上波ではよくやっているのが普通だと思います。韓国では日本のものは放映していないのではないかと考えている方もいるようですが、韓国は日本とちょっと事情が違っていて、地上波もケーブルも同じセットトップボックスで同じリモコンでみるのです。その中には日本のアニメチャンネルもありますし、日本のドラマばかりやっているところもあります。確かに地上波の放送局は日本のものはまだやっていませんが、日本のドラマも映画も音楽も普通にみています。日本のジャニーズの嵐がソウルに来ると空港に2000～3000人集まったり、日本ではあまり報道されないですが、熱狂的な韓国人のフ

ファンもいますし、普通に楽しんでいる方は多いと思います。

○映像紹介

これは去年の6月に弊社として初めてミュージカルを日本で上演させたときの映像です。京都の南座で松竹さんとぴあさんと組んでやったのですが、非常に厳しい結果となりました。共同で初めてやったのは試みとしてはよかったかもしれないのですが、経済的には非常に厳しいものとなりました。

その後、去年の年末に東京の国際フォーラムでもやりまして、今また東京でやっています。ミュージカルは言葉と歌が伝わらないと厳しいと思ったのですが、意外と横に字幕がちょっとあるだけで皆さん楽しんでおられたのかなと思います。

○映像紹介

弊社はネット配信からスタートしていますので、今も本業はネットでの配信です。韓国は地上波の放送局が三つあるのですが、弊社はその中の二つの放送局の日本でのオフィシャル窓口としてサービスをやっております。KBSが日本のNHKに当たる公共放送ですが、この講演のお話をいただいた後に両国の間にいろいろな対立がありまして、KBSのサイトはハッカーの攻撃を受けて1週間ぐらい停止していました。

○映像紹介

「GyaO!ストア」で賞をいただいたのですが、実は日本でネット配信、特に有料でのサービスは、実際収益になるものの一番はアダルトで、多分総売り上げの50%以上を占めているのではないかと思います。そのつぎがアニメと韓国ドラマです。ただ、韓国ドラマに関してはビジネス的にいうと、2005～2006年ぐらいからは日本のスカパーとかいろいろなテレビで普通に韓国ドラマはいっぱいやっておりますので、ネットでの需要はむしろ減っています。

弊社の場合は、一応配信の分野では、今、シェアが一番多くて、Yahoo!の動画は「GyaO!」の中では確か3年か4年連続コンテンツ分野では1位です。大した金額ではないですが(笑)。というのは、Yahoo!はアダルトはやっていないので。有線さんは「Show Time」というものがあるのですが、そこは多分半分以上アダルトで稼いでいると思います。

最近放映された高島礼子さん主演の「のり子」というドラマは、弊社が共同制作という形で、キャスティングなど最初から一緒に作った作品です。高島礼子さんは皆さんご存じだと思いますが、韓国語がほとんどできない方ですが、せりふをほぼ全部韓国語でやらなくては行けなくて、しかも2週間ぐらいしか勉強する時間がなかったのです。ドラマを撮影しているときは、本当はすごく仲が良かったのですが、非常に仲が悪くなってしまって、でも完成したドラマをご覧になった後に、やってよかったと、いい経験になったとおっしゃってくださって、今は別に仲は悪くないです(笑)。

これで映像は終わりです。

2. 事業立ち上げの経緯

順序が逆かもしれませんが、そもそもなぜ日本で韓国のドラマを紹介しようと思ったかについてお話ししましょう。私が日本の大学に留学していた当時は、日本の若い方々は韓国にあまり興味がなく、当然、興味が無いから知らないというので、「韓国では何語を使うのか」とか、「韓国人も箸の使い方が分かるのか」とか、「えっ」ということが多かったです。そこそこ日本では名門といわれているところの大学生がそれぐらいですから、一般の人たちはもっと知らないだろうなと思いました。

そこから、急に事業をスタートというわけではなくて、その後はアメリカに1年間交換留学生として行っていたのですが、ア

アメリカに行く日本人、中国人、あるいは台湾人の学生は韓国の学生と一番親しくなりやすいのです。日本にいとそうでもないのですが、アメリカに行くとき中韓ですごくお互いを分かりやすいというか、白人とか黒人、ヒスパニック系よりは、やはり何か共有している文化があるのだらうなと思いました。

韓国では、基準があいまいではありますが、ドラマより映画の方がクオリティーという意味ではレベルが高いし、発達しているのではないかと思います。ただドラマの場合、日常的な場面が特に多くて、日本にいながら韓国の今の人たち、食べ物や生活習慣などを、もちろん寝るときに、ドラマのようにお化粧して服を全部来て寝るわけではないのですが、みることができるので、ドラマ事業から始めたほうがいいのかと思いました。

3. 文化交流とは何か

本日の講演は大学のオープンキャンパスというので、これから大学生になる方々が対象かなと思っていましたが、そうでもないような感じがします。うちの母も36歳から新入生として大学に入って、私が高校3年生のときに博士号をとりました。だから遅くからでも勉強は始めてくださっていると思いますし、大学に入学されなくても勉強は続けてほしいと思います。

この講演の話をいただいてから、日韓や日中の間にいろいろなことが起きて、私自身、逆にあらためて文化交流とは何だろうと思うきっかけにもなりました。そのことについて私のブログにもいろいろなご意見を書かれる方もいらっしゃるし、ネットも雑誌もかなりその話題で持ち切りというか、いい意味ではないという意味で盛り上がりすぎている。文化交流は、やはり一方的なものはいくはないと思います。国と国、特に隣の国同士は、ほかの地域を見ても仲

良くなるのが本当に難しい。イスラエルなどもそうですし、ヨーロッパではフランスとドイツもそうですし、お隣さんと仲良くするのが意外と難しいのです。皆さんは住んでいる所の隣の方と仲良くされているのかもしれませんが、国と国になると、やはり近いし、ある意味、似ているところも多い分、逆に理解しあおうというのは難しいのかなと思います。

仲良くといっても、隣の人が本当に好きだとか、隣の国のことは何でも好きとか、そういう必要もないと思うのです。ただ、体験せずに食べず嫌いとは問題なのではないでしょうか。日本はこうだという、韓国でもそういう人が多いのです。韓国における日本のイメージは、逆に良すぎるというのもあります。今も多分そうだと思いますが、例えば僕が日本に来る前にいろいろな人から、日本ではみんなすごくあいさつをするし、地下鉄に乗ると皆さん本を読んでいるし、とにかく礼儀なども本当に重んじる国だという話をたくさんききました。でも、地下鉄やバスでみると読んでいるものはほぼ漫画か週刊誌です。合っているところも違うところもあるのです。いいイメージの話を聞いても、それもある意味先入観です。

一つの国といっても、例えばこの京都でも京都の皆さんは全部同じではないですよ。韓国といっても地域によっても違いますし、個人個人がみんな違って当たり前です。だから、文化交流というのは自分とちょっと違う文化、歴史、伝統、考え方、環境を持つ人たちが作ったある意味娯楽なのですが、映画なりドラマなり音楽なりを、むしろちょっと違うから楽しいのではないかと、思えるぐらいの余裕があればいいのかなと思います。

今、ネットでは、韓国政府がお金を出してK-POPアーティストを日本で宣伝しているなどの話が出回っていますが、それが本当ならうちの会社はもっと安定しているはずなのですが、そんなことは全くありま

せん。

韓流ブームが日本でもう10年以上続いています。マスコミからはすぐ駄目になるだろうとか、もう終わったとか言われながらも、当たり外れはもちろんあるのですが、続いてきた。先ほど映像でご覧になったように、ただペ・ヨンジュンに会いたいとか、好きなタレントを近くでみたいというだけではなくて、自分で歌ったり、踊ったりする人や、韓国に留学している若い学生も結構多いです。その人たちが別に韓国でスターになったり、有名なビジネスマンにならなくても、そうした経験自体はプラスだと思います。さらに、韓国人からすると、日本の方々に韓国のものが受け入れられているということは決して悪い気はしない。ただ、韓国ももっと日本のものを見たり聴いたり紹介したりすべきではないかとは思いますが。

4. 文化交流と政府の政策

しかし、特に領土問題となるとなかなか難しいです。皆さんが独島（竹島）は島根県に属していると学んだかどうかわかりませんが、韓国で生まれ育つと当然独島は韓国のものだとか教育されるし、それに対してそんなに疑問を持たないのです。だから、日本の方が独島は島根県と思うのも別にそれでいいと思うのです。ただ、そのような対立や、利権的な問題も含めて葛藤があったとしても、文化的な交流を絶つとか、やめるというのはちょっと違うと思います。むしろお互いを好きにならなくても理解する意味での文化的な交流は非常に役に立つと思いますし、過激な報道や攻撃より、どう考えてもお互いにとってプラスではないかと考えます。

今、10年ちょっと前からのお話や映像を、弊社が関わったものを中心にその一部をご覧いただいたわけですが、日韓の文化交流は別に K-POP やドラマの話ではなく、数

千年以上続いているものです。私自身、日本に留学してから、「えっ、そうなの」というのが結構あり、例えば日本にある仏像が韓国から持ってきたものだったとか、何千年前の話が本当にいっぱいあるのです。

江戸東京博物館に行かれると見られると思いますが、江戸時代にも朝鮮通信使が日本全国を回りました。文化交流が盛んな時代はお互い平和なのです。交流が盛んになるとお互いに行ったり来たりするので戦争をする理由がありません。鎖国したり排他的になったりすると、やはりそこで分からないものへの不安や恐怖が増幅したり、あるいはそのときの多分政治とか権力を持った人たちが、「あの国は駄目だ」とか、「あの人間は駄目だ」とかいうことに、みんな「そうだ」「そうだ」ということになってしまうのではないかと。だから、民間レベルでの文化交流は、政治的な状況などとは関係なく、やはり続けるべきではないかと思っています。

最近、先ほどの映像でご覧になった「花男」に出た女優のク・ヘソンさんのドラマや、弊社が上演させたミュージカルの映像も番組編成から急に外されました。理由は特にありません。あるとすれば、諸事情によりというか、状況をかながみてみたいなことでしょう。

ミュージカルの映像や、その女優さんが主演したドラマを放映するというのが、日韓関係にどれだけプラスになるのでしょうか。全くプラスにならないと思います。

例えば、韓国の例ですが、韓国では20年ちょっと前までは、映画産業がすごく衰退していて韓国映画を保護するために、年間上映可能な回数の30%以上を韓国の映画で占めなければならないというスクリーンクォータ制度を設けました。その後政府は、そのような文化的な鎖国というか、外国のものをあまり受け入れないのは貿易の観点からよくないということで、スクリーンクォータ制度を廃止しようとしてしました。その

ときに、映画監督さんや俳優さんがすごいデモをしたのです。これで韓国映画は死ぬと。でも、実際にそれから4~5年経ち、10年経ってみると、韓国の映画は海外に行くようになったのです。もっと専門的な教育を受けた人たちや、もっと情熱を持った人たちがいい作品を作れるようになった。もし、そのまま保護していたら、韓国の映画はもう駄目になっていたと思います。

文化とは違うのですが、昔韓国は外国産の車をほとんど輸入しませんでした。関税がものすごく高く、輸入車を買えるのはほんの一握りの人たちだけでした。今も輸入車に関税はかけられているのですが、でもすごく安くなりました。では、外国産自動車の輸入により韓国の自動車産業が駄目になったかという、むしろ強くなりました。

日本の芸能界やドラマ、映画を作られる方々のなかには、韓国のものは脅威だと言われる方がいるかもしれませんが、マスコミで騒ぎやすい素材ではあるものの、実際韓国の映画、ドラマ、音楽の日本での市場規模はそんなに大きくはありません。日本のコンテンツをさらにどうやって韓国とかほかのアジアに輸出しようかと考えた方が建設的だと思います。

実は韓国で日本のドラマをみる人は結構多いです。好きな人も多い。しかし、そうしたコンテンツをあまり輸出しないのは、音楽もそうですが、単純に経済的理由のためです。日本国内市場の方がアジア全部を合わせたものより大きいのです。日本でコンサートを1回やった方がアジア各国を回るより儲かるのです。日本でドラマの放映権を売った方が韓国や東南アジアで売るよりいいのです。こうした経済論理で、日本のアーティストはアジアに出ていかなければと切には思わないのです。一方韓国は人口も少なく、また国内市場も小さいので、生き残るためには海外に進出せざるを得ないという事情があります。ただ、現在経済

的に豊かでないアジアの国々もいずれ発展したり変化していきますから、そのままの状態ではないでしょう。

この講演の依頼を受けたときに、日韓の文化交流といっても実にさまざまな側面があり、そのうち一つの側面だけでも1時間以上話さなければと思いました。私は個人的に10年以上韓流や日韓文化交流とかかわっていますが、何のためにやってきたのだろうと思うときがあります。こうやって皆さんに、ご近所の方々ばかりではないだろうに、お越しいただいて、居眠りされながらもこういうつまらない話も聴いていただくようになったこと自体、12年前、僕が初めて来日したときは想像もできなかったことだと思います。

日本のマスコミでは過激な韓国人たちがよく映し出されますが、決してそういう人たちばかりではないということは、韓国に旅行に行かれた方々は分かると思います。お互いにもう少し理解しあえる仲になれるという意味では、伝統芸能、あるいは政治的な交渉、何でもいいのですが、それよりも普段の生活で楽しめるもの、大衆文化、人の行き来、交流は意外と大事なものののではないかと思います。

私が話すのは1時間ということなので、これで一旦終わりにさせていただきます。ありがとうございました（拍手）。

【質疑応答】

金 再び失礼いたします。孫さん、どうもありがとうございました。2時半までですのであと25分ぐらいお時間がありますが、私がいろいろ孫さんにお聞きするより、きっとフロアの皆さんはお聞きたいことがたくさんおありなのではないかなと思います。先ほど孫さんから「まとめは最後に」というお話がありましたので、私の方から質問をするという形で、お話をまとめた後に、フロアの皆さんから2~3ご質問をいただければいいかなと思います。

先ほど21世紀の幕開けとともに、韓流がアジアを中心に彗星のごとく現れて、今なお続いているという話を伺いましたが、その最初の段階から孫さんはかかわっておられるわけで、まさに韓流の真っ只中を歩んでこられた証人として、本日は映像を交えながら非常に貴重なお話を聞かせていただくことができました。

交流については横にしばらく置かせていただいて、韓流の話に戻してお聞きしたいと思います。ご存じの方も多いかと思いますが、韓流は今、第2期に入っているといわれています。例えば第1期は、2002年、いわゆる「冬ソナ」あたりからドラマが中心になって入ってきている。いろいろな韓国のドラマが入ってきたのですが、その後、若干陰りが出てきた時点で、2000年代の半ば頃に今度はK-POPのアーティストたちが日本に上陸し現在まで続いている。人気グループのKARAとか少女時代とかBIGBANGとか、次から次へと、ちょっと私はついていけないのですが、踊りやら歌やら大変楽しいパフォーマンスを見せてくれる韓国の若いアーティストたちが出てきていますが、ではこれから韓流はどうなっていくのでしょうか。これについて個人的に私は関心がありますし、孫さんはまさにかかわっておられますので、もっと気になるところだと思いますし、きっと皆さんもお聞きしたいところだと思います。

つい最近、韓流に関するある統計指標を見る機会がありまして、大変ショックを私自身は受けているのですが、ある韓国の新聞社が日本と中国と台湾とタイの4カ国を対象に3000人ぐらいの人にアンケート調査を行いました。「今後、韓流はどうなっていくと思いますか」ということをきいてみたところ、大変ショッキングな結果が出てきました。内容をご紹介しますと、「もう韓流は終わってしまった」が20%、「あと5年以内に多分終わってしまうだろう」が5割でした。この結果を踏まえて、アンケ

ート調査を行った韓国の新聞社も「韓流、このままでは駄目かも」という見出しで、頻繁に取り上げています。せっかく皆さんに関心も持っていただいて、愛していただいているのに、過去のどこかの国の映画みたいに終わってしまうともったいないといっているので、これをどのような形で続けていって、さらにこれをきっかけに新たな日本と韓国、あるいは韓国と世界との国際交流に役立ててもらおうかということを、今、韓国ではいろいろなレベルで考えているようです。

少し話が長くなってしまいましたが、もし第3の韓流の波があるとすればそれはどのようなものなのか、あるいは今後、韓流はどういうことを目指すべきか、今日はタイトルが日韓交流ですので、文化の方からみた場合に、日韓交流のためにどういった韓流の姿が今後考えられるのか、少し質問が漠然として申し訳ないのですが、孫さんのお考えをお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。

孫 まず、もう衰退してなくなるだろうとか、終わりでしょうみたいな話は、2002～2003年からあったもので、僕は会社の経営者としては若干困りますが、それだっただけでなくなっても別にいいのではないかと思います。これは無理やり新聞社やテレビ局が作り上げてどうせ長続きしないし、する必要もないと思います。個人的に韓流という言葉が嫌いだったのはそこにもあって、先ほどの韓国映画の話もそうですが、無理やり守って、それを化石にする必要はないのではないのでしょうか。大衆文化は変化していくし、その時代に応じて変わっていくもの。日本のアニメは、今、世界最強ですが、10年後どうなるか当然分からないですよ。そうならないように切磋琢磨していいコンテンツを作り続ける。その姿勢がなければ、「過去、韓流で韓国ドラマが人気のあった時代もあったね」とか、「K-POP

アーティストは人気があったよね、昔は」と言われても、しょうがないと思います。だから、保護する理由もなければ、無理やり寿命だけ延ばす必要もないのではないかと思います。

ただ、データとしては、これはもう終わるとか、終わったとかというのは、結構マスコミとしては楽しいネタだと思うし、韓流をあまりいいと思わない方々からすると、早く終わってほしいというのも当然あるので、そのアンケートの結果は多分その通りだと思いますが、これからどうなるかということは予想できません。私は最近、もう日本での事業は無理かなと思ったこともあります。2003年、2004年もそういうことはありました。だから、それはそれでしょうがないことだとは思いますが、ただそういうことで交流がなくなるとなるととても残念です。

第3の韓流の波が次にあるのか、K-POPの後はどうなるかというのは、研究者の関心事ではあるでしょうけれども、僕みたいに小さい現場で事業をやっている者からすると、事業は衰退したり、うまくいったり変わっていくものだし、作品やアーティストも、やはり人気がある被写体もその人気はずっとそのまま続くとは限らないという現実がありますので、特に予想はできないというか、あまりする必要はないのではないかと思います。

金 もうちょっと突っ込んだ質問をしますと、では考えられる新たなコンテンツといえますと、どういうことが考えられるでしょうね。

孫 実は10年以上前から、これからアジアで合作などが増えるのではないかという話はありました。ここ最近の傾向として、これは日本の話ではないのですが、市場規模が非常に大きい中国ですと、韓国のドラマの監督さんを中国に呼んで、そこに女優

さんや俳優さんも一緒に呼んで、中国のドラマとして撮影する。それは理由があって、中国では外国のドラマや映画に対する非常に厳しい制限がありまして、外国作品は年間十何作品ぐらいしか多分放映できない。そのため、韓国の人たちにお金を払って中国に連れてきて制作をします。中国製のただけでも本当は韓国ドラマみたいな、そういうものも多いです。あと中国の映画界から韓国の俳優へのオファーが非常に多い。日本の場合も、最近、玉木宏という俳優さんが中国の映画に出っていますが、どこの国がどうのこうのというより、お互い強みなどがあると思うので、合作とか、協力して一緒に何かをやるということになれば、韓国は駄目だとか、日本は駄目だとかということもなくなるのではないのでしょうか。ただ、無理やり合作をつくっても、それはそれで副作用があると思うのであまりよくないと思いますけれど。

韓国で新しいコンテンツが出てくるという点に関して僕はちょっと懐疑的です。なぜかと言うと、本当にいろいろな方々が共感できるような作品、ドラマや映画もそうですが、そんなに頻繁にはつくれません。努力したところで当たるか当たらないかわからないから失敗する作品も多いのです。音楽もそうだと思います。自然な流れで何かが出てくるのではないかと思います。

金 確かにおっしゃるとおりだと思います。この夏、ソウルにいたのですが、いろいろなメディアで言っていたのは、今、孫さんがおっしゃったように、一つの国がそれぞれの独自性を出してやっていくというのは、多分今までずっとやってきたやり方だと思いますが、もうそれぞれ限界が来ているのではないかということです。そこで、東アジアなら東アジアでワンアジア何とかをつくったらどうか、その際文化のハブみたいな役割を韓国が果たしたらどうだろうかという意見もありました。ハブ空港とし

ての仁川空港がうまくいっているものだから、文化もうまくいくだろうとどこかで思っているのかもしれませんが、中国と日本の間に挟まれている韓国の立地条件を活かし、共同出資、あるいは人材を出し合って、東アジア的な普遍性や価値観というものに基いた何かを作ったらいかがだろうか、という案が出ていました。私は専門が文化人類学ですが、東アジアの共通の価値観といってもなかなか難しいと思います。ただ、何かについて大まかな方向性を見つけて、せめて東アジア3国でも、台湾も入れて、見ていくということは一つぐらい夢があっていいのかなとは思っています。

最後に、今日のタイトルに戻ってひとつ質問したいのですが、結局、韓流は日韓交流に役立っているのでしょうか。ごめんなさい（笑）。

孫 それを例えばパーセンテージや、よくあるアンケート結果でどうだこうだとかというのは、正直あまり意味がないと思います。役に立っているというのは何に対して役に立つのかという問題もあります。正直、文化はなくても生きていけるものなのです。急に音楽がなくなったからといって明日から死ぬわけではない。歌で食べている人は違うでしょうけれども。生活に必ずしも必要なわけでもありません。ドラマをみなくともほかの楽しみは多分あると思います。なので、役に立つ、立たないという意味では、本当にそれは個人レベルの話だと思います。この中でも結構な割合の方々が韓国ドラマを本当に楽しんでいると思いますが、そういう意味で役に立ったのかなという気はします。

日韓関係という意味でいうと、先ほど申し上げたように、韓国の立場からは、自分たちの国で作ったものをみってくれる、聴いてくれる人たちがほかの国ににいるということに対してまず嫌悪感を持つことはないと思います。ありがたいと思うことはあると

思いますし、逆にその国に対して興味を持つようになる。そういうあまり測れない効果としては役に立っていると思います。

金 はい、ありがとうございました。私は日本に来て30年ぐらいになりますが、先ほど孫さんもおっしゃっていましたが、自分が留学生として来日した当時と比較してみると、比べものにならないぐらいに向こうからはこちらに、日本の方は韓国へ行き来していらっしゃいますし、また、楽しみ方も随分変わってきていると思います。日本の方と、韓国を訪れている中国の方の韓国での過ごし方を比較してみると非常に明らかです。中国は個人旅行が自由化になってまだ日が浅いですが、日本に来られる中国の方の観光行動のパターンとよく似ています。とにかくブランド品をたくさん買う。有名な所を短時間で見て回って帰る。

日本の旅行者も最初はそうだったかもしれませんが、今、韓国を訪れる日本の方々楽しみ方を見ますと全然違います。もちろんエステやブランドを目当てに行かれる方も大勢いるのですが、でもソウルだけではなくて、地方の小さな都市とか、その都市のどこかの店がおいしいからそこに行くとか、非常に個別に楽しんでいる人も多く、また、言葉があまり通じなくても地元の人との交流を大事にしている人も増えてきています。このようなことは昔はちょっと考えられませんでした。それは、孫さんのような方たちのいろいろな活動や努力のお蔭だとも思います。ご本人はそう思ってらっしゃらないかもしれませんが、10年というのは大変長い時間ですからね。その積み重ねがそのような旅行の形で現れるのではないかと思います、楽しみにしていつも見えています。

ただ、今、ちょっと微妙な時期というお話もありましたが、何かがあると、またあれも駄目、これも駄目、あれがけしからん、これがけしからんというようになってしま

うのはとても残念です。今朝のインターネットのニュースを見たら、もうフジテレビが秋の番組に向こうのドラマを放映する予定はないということがのっていました。それは放送局の方針なのでなんとも言えませんが、そのように敏感になるのはなぜでしょう。先ほど孫さんもおっしゃいましたが、日本のものが韓流ほど韓国では受け入れられていないということが非常に大きいと思います。やはり交流というのは相互交流でないと長く続かない、Win-Win 状態でないと、片方だけ流れっ放しでは続かないということがあって、私は日本専門でも韓国専門でもないのですが、今後、何らかの形で相互交流に何かできることがあればと思っていますし、皆さんもきっとそういうことを考えて御覧になっているのだと思います。ですから、1日でも長く、いっずっとIMXが続くことを心底望んでいます。孫さんには、「新たなコンテンツを作っていきます」と宣言していただきたいぐらいです。

お忙しい方にご無理を言って今日は来ていただいたので、本当にありがたいと思います。

あとわずかな時間ですが、せっかくでするので、何かフロアの方でご質問したいことがあれば、挙手をお願いします。はい、お願いします。

(フロア1) 私は3年ぐらい前に、それまではあまりビデオをみることはなかったのですが、ビデオ屋さんにみにいったときにイ・ジュンギさんのドラマをみて、イ・ジュンギさんのドラマがとてとてもすてきだと思っていろいろなドラマをみだしたのです。でもやはりイ・ジュンギさんが一番すてきだと思ったので、彼の作品をすべてみたときに、日韓合作映画が1本あったのを見つけました。それでたまたま私は京都に生まれ、育ちましたので、その映画を本当に目がしばしばするぐらいみました。そして、そのロケ地をすべて回りました。す

べてというのは、本当にガイドブックに載っていない所まで調べました。それで、今年で3年目になるのですが、日本の全国の皆さん、イ・ジュンギさんのファンの方を集めてバスツアーをやっております。

韓国に行っても私はドラマのロケ地巡りが、もちろん本人に会えばとてもうれしいのですが、それ以上にロケ地巡りというのですか、こんな場所でこんなものを撮ったのだとか、例えばこんな所でこんなものを食べられたのだということがすごく文化交流ということに対して私の中ではすごく大きくなりまして、そのおかげでお友達ができたり、例えば韓国へも行ってみよう、行っても、そのとき入隊されてしまったので会いにいけないわけではなかったのです。お友達に連れてもらいまして、韓国でドラマのロケ地をすべて回って帰ってきました。

そんなことをこれからも孫さんをお願いしたいかなという気はします。日本のファンの人たちが個人でロケ地を回ったりするのですが、もし機会があればイ・ジュンギさんのロケ地を巡りましょうツアーをソウルからバスを出してもらってやっていただけると、日本の初雪ツアーは私が担当させていただきますので、よろしく願いしたいと思うのですが。

金 いかがですか。

孫 ロケ地に行くというのは、うちの会社が2002年に初めてやったときに、ロケ地などは誰も行かないでしょうと言っていたのですが、その当時は「秋の童話」というドラマのロケ地でした。でも皆さん本当に楽しんでいただいて、それはよかったのですが、バスツアー、そうですね。

金 検討しますという意味ですか（笑）。

孫 簡単なことではないと思いますが、それはそれで検討させてください（拍手）。

金 確約はまだということで、ではサービスの一つとして、イ・ジュンギさんというのはどういうタイプの人ですか。

孫 イ・ジュンギは、仕事をするときは本当に頑張る人。あと体力がすごいのか、頑張っているからなのか分からないですが、「疲れた」とか「休む」とかいうことを言わないですね。今、ドラマをまさに撮影をしています、徹夜で撮影しても元気一杯でやっているの、そこは素晴らしいかなと思います。

金 お酒が非常に強いと前に伺ったことがあるのですが、そうですか。

孫 お酒が強い人は多いです。ペ・ヨンジュンも強いし、ソ・ジソプも強いし、みんな強い。私が弱いので、よくお酒を飲む人はあまり好きではない。

金 もうそろそろ時間ですが、もしもう一方質問したい方がおられれば、最後の一人ということで。はい、お願いします。

(フロア2) 先ほどIMXさんの文化に対してはなくてもいいようなものだという話がありましたが、私としてはどんどん伸びていっていただきたいために、今、抱えておられるZE:Aさんとか、ジュンギさんという俳優さんたちをどのように伸ばしていこうとか、どうやっていこうとかという考えはあるのでしょうか。

孫 非常に難しいことで、会社としてできることは実は限られています。先ほどおっしゃったZE:Aは韓国の事務所がトレーニングをして、過酷な訓練をしてデビューさせたのですが、あとはアイドルなので曲も会社がプロデューサーを通して持ってきて歌わせて、つまりある程度売れるまではやはり会社の責任です。ですが、そこから

さらに売れる、あるいは人気を維持するというのはやはり会社だけの問題ではありません。俳優さんはまた全然別で、会社ができることはほぼない。ファンクラブやグッズやイベントなどは本人ができないので、その辺は会社としてやる。けれども、演技に対する努力や情熱は本人次第です。それは日本の芸能界を見れば分かると思いますが、有名なタレントさんがいれば、いわゆるバーターで出演させて、あるいはバーターで広告に出して、一定のところまではやっていく。ただ、さらに大物になるかどうかは、その本人次第です。ただ、うちではできる限りのサポートをする、それしかないと思います。

金 ありがとうございます。本当にお話は尽きないのですが、予定しておりました時間になりましたので、今日のお話はここで終わりにさせていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました（拍手）。